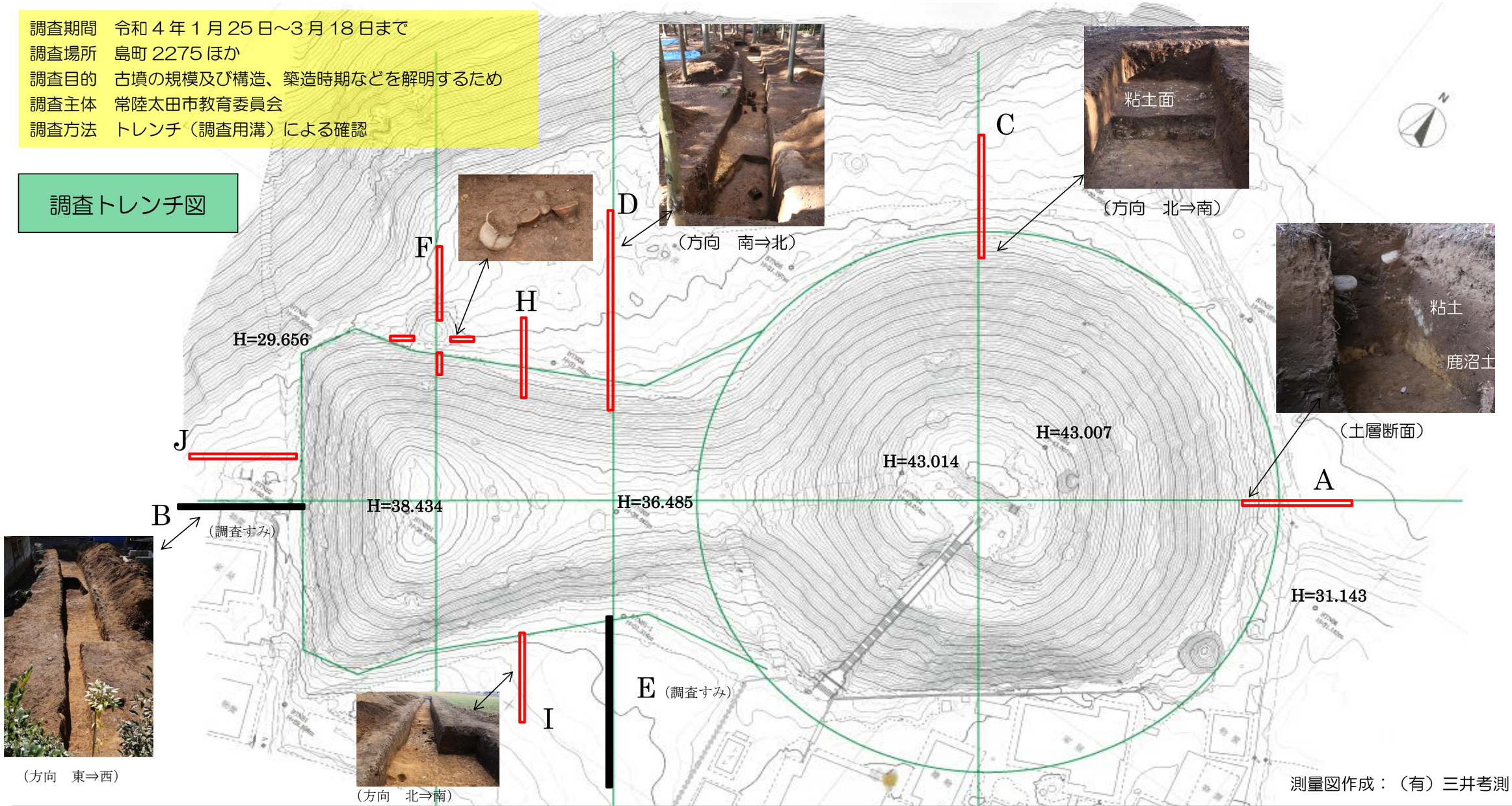
令和３年度梵天山古墳確認調査　現地見学資料

令和４年３月７日現在

調査期間　令和４年１月25日～3月18日まで
調査場所　島町2275ほか
調査目的　古墳の規模及び構造、築造時期などを解明するため
調査主体　常陸太田市教育委員会
調査方法　トレンチ（調査用溝）による確認

調査トレンチ図



測量図作成：（有）三井考測

梵天山古墳群とは

梵天山古墳群は、島町の丘陵一帯に分布する前方後円墳、円墳及び台地西南端の崖面に点在する横穴墓群からなりたっている。

主墳の梵天山古墳は、全長151mの県内第２位の規模を持つ前方後円墳で、西方を向く前方部は、長さ67m、高さ8m、東側の後円部は直径84m、高さ13mで、後円部が5m高くなっている。古くから久慈川流域を支配した首長の墳墓とされ、時期は、古墳時代前期（4世紀前半頃）の築造と推定されており、この時期の前方後円墳としては、東日本最大級の古墳である。当地を支配した支配者層と、前方後円墳を採用して各地に支配を広げるヤマト王権との関係性についても注目される。